YAMATO MOBILITY & MFG.

証券コード 7886

2027年3月期 第2四半期
決算短信　補足資料

2026年11月13日

ヤマトモビリティ&Mfg.株式会社

2027年3月期 第2四半期実績

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

2027年3月期 第2四半期累計実績のポイント

売上高 **3,939百万円**　　営業利益 **▲115百万円**

・合成樹脂関連事業：中国子会社の株式譲渡により**セグメント黒字化**に成功

・物流機器関連事業：大口案件新規受注に成功し**セグメント増収増益**

・ＥＶ関連事業：2Q以降の受注に向けた商談を**継続中**

・販管費は、全社的な効率化を図り、**経費削減**を実現

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

2027年3月期 第2四半期累計 業績

売上高は前年同期比で減収。中国子会社の連結除外影響を受ける一方、国内事業は堅調に推移
営業損失は前年同期から改善。

単位：百万円

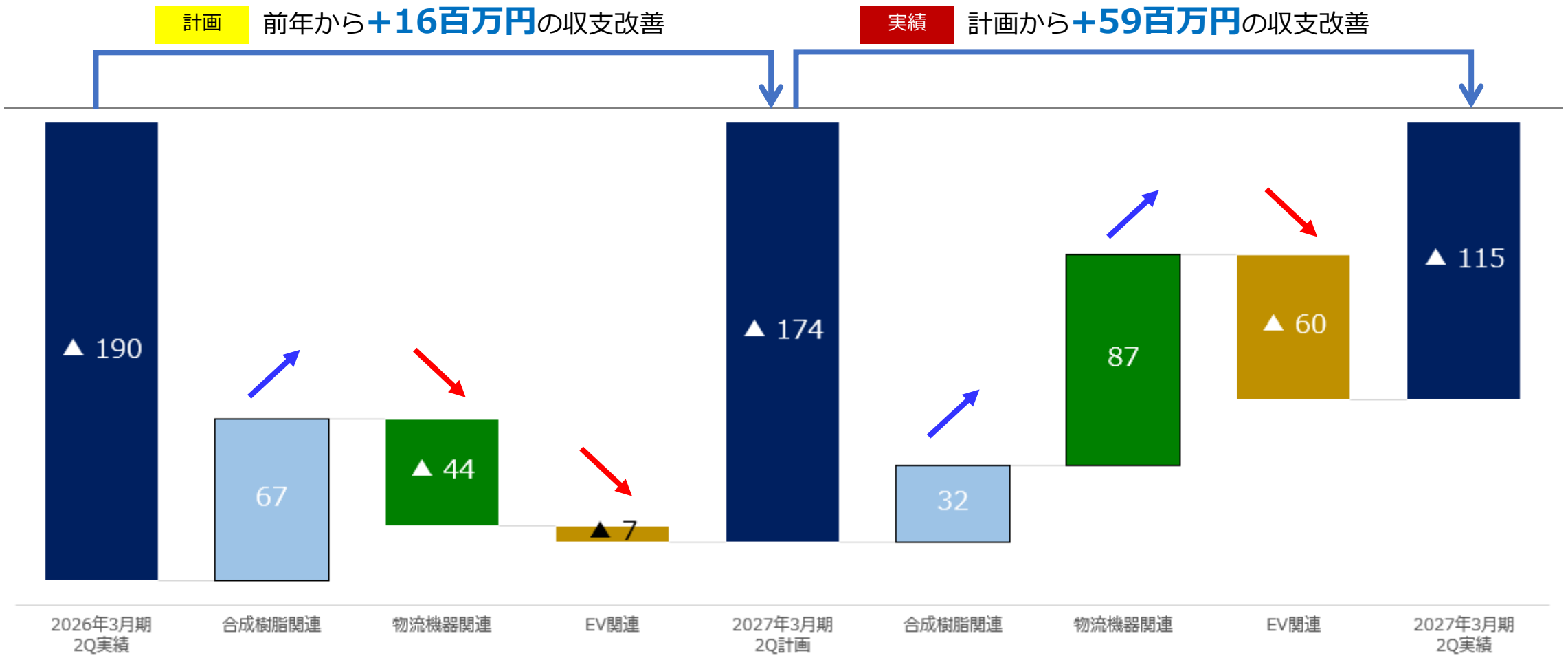
	2026年3月期 第2四半期累計	2027年3月期 第2四半期累計			
		実績	前年増減	期初計画	計画比
売上高	5,983	3,939	▲2,044	3,681	258
合成樹脂関連事業	5,017	2,647	▲2,370	2,699	▲52
物流機器関連事業	931	1,272	341	859	413
EV関連事業	35	19	▲16	123	▲104
売上総利益	667	649	▲18	593	56
販管費	857	765	▲92	767	▲2
営業利益	▲190	▲115	75	▲174	59
経常利益	▲279	▲178	101	▲209	31
当期純利益（損失）	▲203	▲252	▲49	▲212	▲40

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

セグメント利益の状況

合成樹脂関連事業、物流機器関連事業が計画を超過した一方、EV関連事業の追加投資が膨らむ結果、前年対比で＋75百万円、計画対比＋59百万円の収支改善となった

単位：百万円



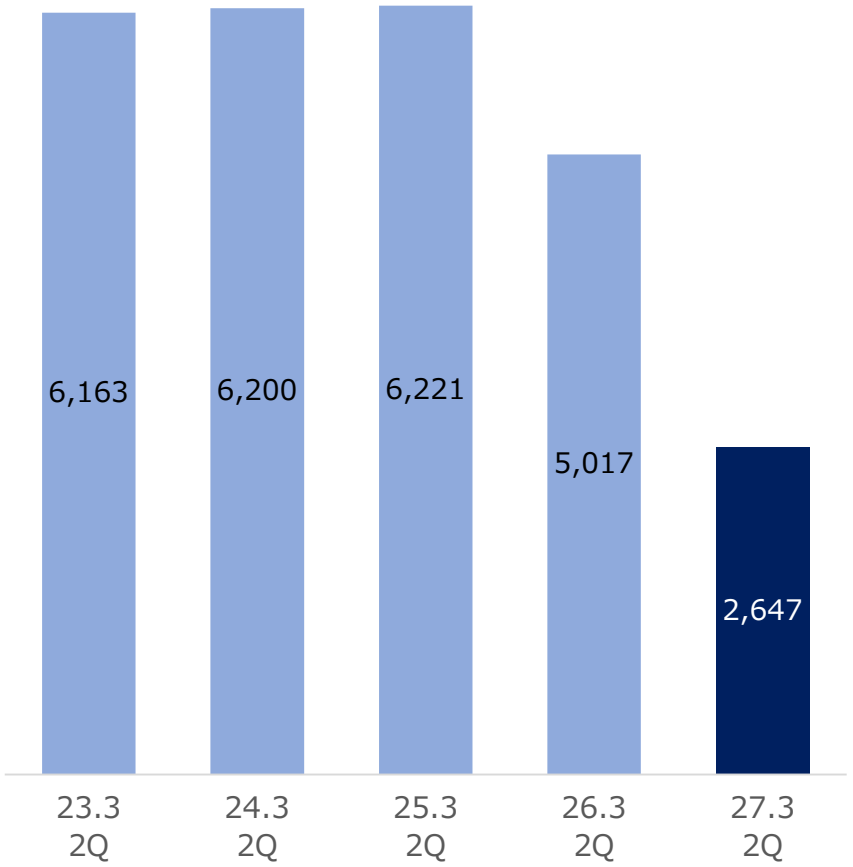
2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

セグメントの状況

合成樹脂関連事業

既存事業の受注拡大に加え、新規製品・新規顧客の開拓を積極的に推進
独自成形技術の活用や新たな製品分野への展開を通じ、事業領域の拡大を目指す

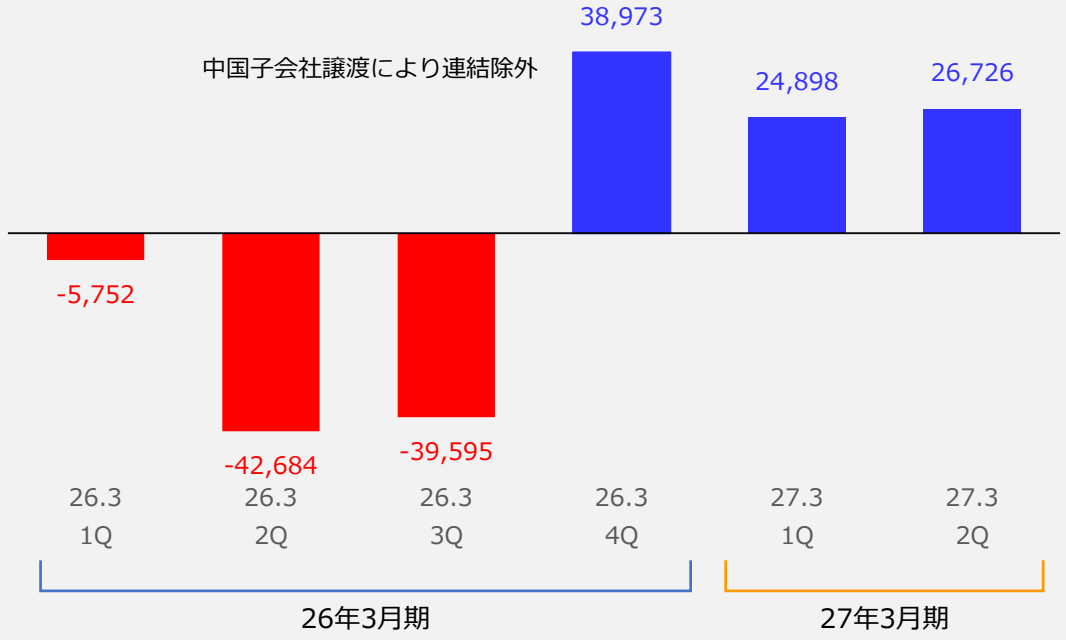
合成樹脂関連事業（売上高：百万円）



2027年3月期 第2四半期 セグメントの状況

- 主要顧客向け既存製品の量産立上げ・増産対応及び販売拡大を推進
- 得意先の海外展開強化により、海外向け関連部材の追加受注を獲得
- 新型・更新型製品の受注拡大及び高付加価値技術を活用した新市場開拓を推進
- 品質保証体制の強化と生産業務の移管・再編による生産効率向上を推進

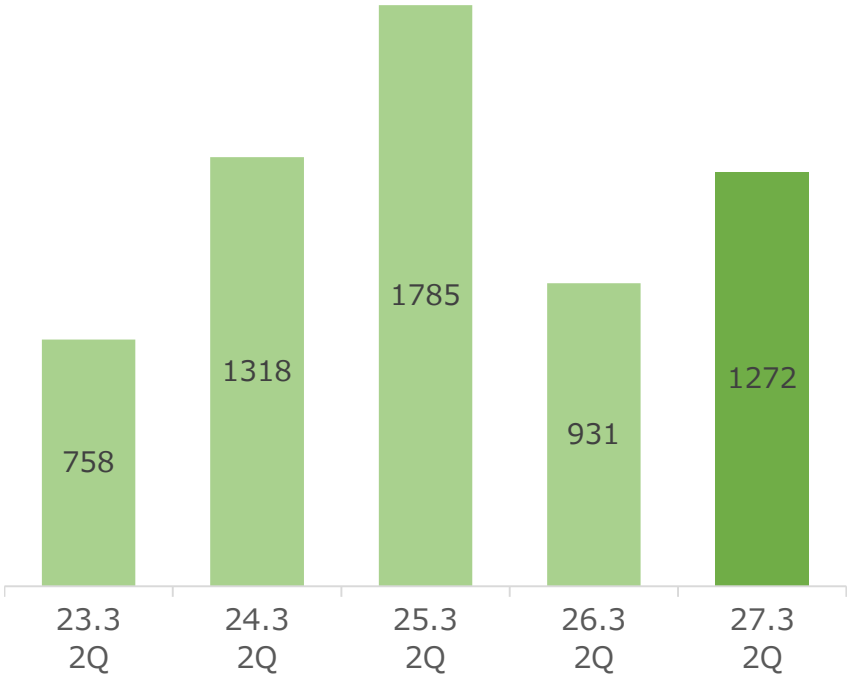
セグメント利益推移（千円）



2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

大口顧客向け案件の受注に加え、新規顧客開拓による受注基盤の拡大を推進
繁忙期に向けた生産能力・物流体制の強化と新製品の市場投入により、収益拡大を目指す

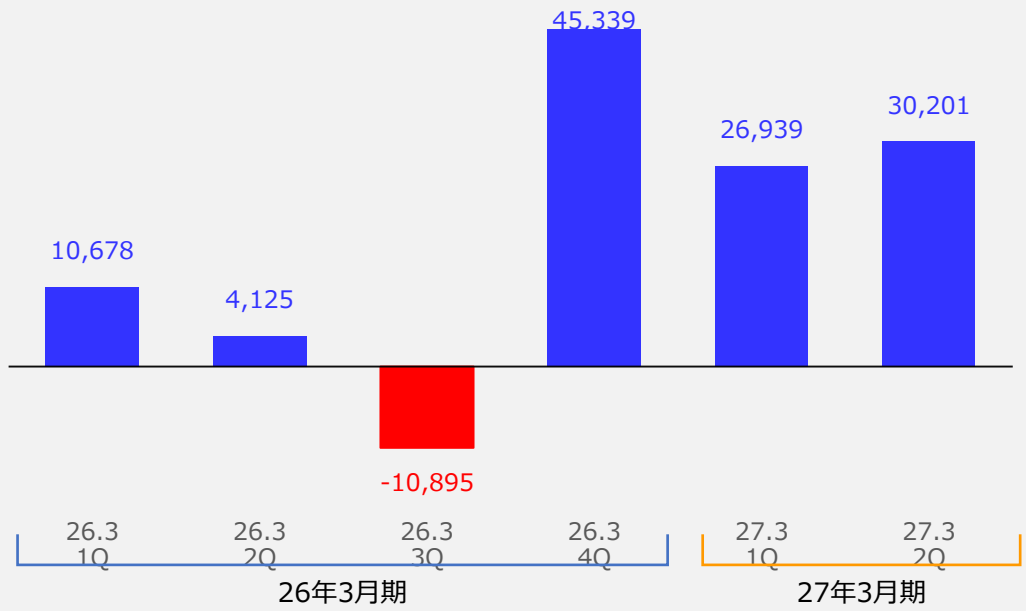
物流機器関連事業（売上高：百万円）



2027年3月期 第2四半期 セグメントの状況

・大口顧客向け大型案件の受注を推進
・運輸・小売・食品等の幅広い業種で新規・追加受注を獲得し、顧客基盤を拡大
・新製品の販売開始に向けた準備及び販促活動を推進し、新たな販路を開拓
・需要拡大に備え、外部倉庫増床や協力会社との連携による生産・物流体制を強化

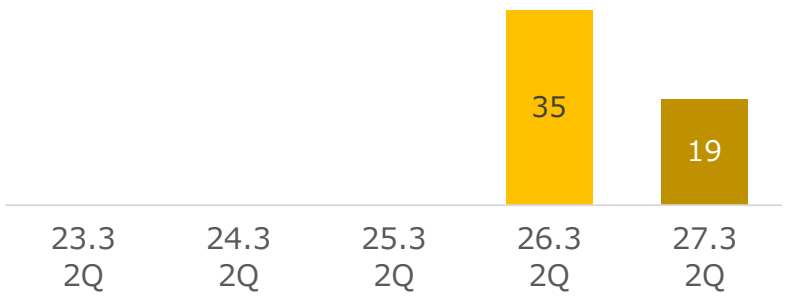
セグメント利益推移（千円）



2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

- EVコンバージョン事業は、キャンター2トンの量産開始に加え、アトラスEVコンバージョンの販売開始により商品ラインアップを拡充。量産・量販フェーズへの移行を推進。
- 将来の成長領域として、自動配送ロボット関連の実証プロジェクトや協議会へ参画し、次世代物流ソリューションの事業機会創出を推進。

EV関連事業（売上高：百万円）



2027年3月期 第2四半期 セグメントの状況

売上高の状況
- キャンター2トン量産化およびアトラスEVコンバージョン販売開始に向けた営業活動を推進
- 展示会出展や試乗会を通じ、物流事業者を中心とした顧客開拓を拡大
- EVコンバージョン市場における認知度向上および案件化を推進

利益面の状況
- EV関連事業の中長期成長に向けた先行投資を継続
- 商品開発、量産体制構築、人材採用・育成等の事業基盤整備を推進
- 将来の収益拡大に向けた開発投資フェーズ

＜主な進捗＞
- ■ キャンター2トンEVコンバージョンの量産開始
- ■ 日産アトラスEVコンバージョンの量産・販売開始と体制構築
- ■ グリーンコープ向けEVコンバージョントラックの受注獲得および第一号車納車
- ■ 自動配送ロボット関連プロジェクトへの参画による新事業開発推進

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

貸借対照表の状況

単位：百万円

	2026年3月期末	2027年3月期 第2四半期末	増減額	主な増減要因
流動資産	3,377	3,508	+131	商品及び製品 +150 原材料及び貯蔵品 +34
固定資産	1,757	1,729	▲28	
資産合計	5,135	5,238	+103	
流動負債	2,878	3,204	+326	支払手形及び買掛金 +179 短期借入金 +132
固定負債	1,686	1,660	▲26	長期借入金 ▲24
負債合計	4,565	4,865	+300	
純資産合計	569	373	▲196	
負債純資産合計	5,135	5,238	+103	

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

2027年3月期 通期計画と取り組み

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

2027年3月期 通期計画のポイント

売上高 **9,742百万円**　営業利益 **108百万円**

・上期は**計画対比で順調**に進捗

・ＥＶ関連事業の売上は、**第3四半期以降に本格化**する計画

・ＥＶの受注動向を見極めるため、**通期計画の修正なし**

・販管費は、物価高騰や人件費上昇を受けて上昇

・中東情勢悪化の影響を受けた原材料不足により安定生産に懸念

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

2027年3月期 通期計画

単位：百万円

	2026年3月期 通期実績	2027年3月期			
		2Q累計実績	通期計画	前年増減	前年比
売上高	9,730	3,939	9,742	12	100.1%
合成樹脂関連事業	7,651	2,647	5,132	▲2,519	67.1%
物流機器関連事業	2,050	1,272	2,238	188	109.2%
EV関連事業	27	19	2,372	2,345	8,785.2%
売上総利益	1,184	649	1,679	495	141.8%
販管費	1,625	765	1,570	▲55	96.6%
営業利益	▲441	▲115	108	549	黒字転換
合成樹脂関連事業	▲49	51	54	103	黒字転換
物流機器関連事業	49	57	4	▲45	8.2%
EV関連事業	▲440	▲223	50	490	黒字転換
経常利益	▲709	▲178	40	749	黒字転換
当期純利益（損失）	▲827	▲252	17	844	黒字転換

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

新規案件の確実な取り込みと、金型販売の強化、BtoCビジネスの伸長等により、売上・利益の拡大を図る

1.　新規受注案件の量産立上げと、増産対応

〈射出成形部門〉
自動車用機能部品/家庭用品

〈真空成型部門〉
大型製品の販売拡大/レジャー車両関連外装部品
板加工分野への進出による事業規模の拡大

2.　新型・更新型製品の受注活動強化推進

成形部門と金型部門の一体化によるワンストップサービスの推進

3.　顧客拡大に向けた提案の推進

繊維強化樹脂+ミューセル成形複合品の提案
卓上小型射出成形機モールドロック®活用の提案

4. BtoCビジネスの伸長

通常射出成形と特殊成形を融合した自社製品開発の継続と、
新製品の開発による販売拡大

車中泊用簡単窓枠排熱ダクト（再生材を使用）
車中泊用にポータブルエアコンを効率的に活用するための車外吸排気ダクト





2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

2027年3月期の取り組み　物流機器関連事業

積極的な新製品開発による製品ラインナップ拡充を推進して、既存顧客の深化と新規顧客層の開拓を加速し売上拡大を図る
加えて、サステナブルニーズに対応した新サービスの展開を強化し、持続的成長基盤を構築

1. 新製品・高付加価値製品の開発、販売

セキュリティカゴ車
（商品･荷物の盗難防止）
◆本年11月中旬販売開始予定



上下観音扉付ロールコンビテナー
◆絶賛販売中



側面ガード兼用メッシュ棚付き6輪カート
リニューアル



2. サステナブル関連サービスの充実

修理・レンタル・中古品・OUTLET販売などの推進

3. 勝てる販売スタイルの実現

ホームページやダイレクトメールなどのwebツールを活用した営業展開の強化

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

➢ 次世代物流ソリューション創出に向けた外部連携を強化

EVコンバージョン事業に加え、自動配送ロボットを活用した次世代物流ソリューションの実現に向け、業界・自治体・実証フィールドとの連携を推進。

➢ 7月「奈良県宇陀市中速中型自動配送ロボット実装共創会議」へ加盟

- 中速中型自動配送ロボットの社会実装を目指す
- 産官学連携プロジェクト宇陀市を実証フィールドとし、公道走行を含む実運用を想定した検討を推進
- 当社は物流事業者視点での実装検討に参画し、実証機会の獲得を目指す



➢ 9月25日　「平和島自動運転協議会」へ加盟

- TRCを実証フィールドとする自動運転・自動配送の社会実装プラットフォーム
- 自動運転関連企業や物流事業者との連携を通じたエコシステム形成に参画
- 実証実験や事業化に向けたパートナーシップ構築を推進

2026.09.25 ニュース

ヤマトモビリティ＆Mfg.、「平和島自動運転協議会」へ加盟

～既存車両のEV化と自動配送ロボットで、持続可能な物流インフラの構築を加速～



Japan Mobility Show 2025出展コンセプトモデル

EVコンバージョン事業で培った物流分野の知見を活かし、自動配送ロボットとの融合による次世代物流ソリューションの実現を目指します。

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

➢ 11月2日　日産アトラスEVコンバージョントラックの量産・販売を開始

- 2025年発売の「三菱ふそうキャンターベースEVコンバージョン」に続くラストワンマイル配送向け車両の第二弾モデル。
- 製造パートナーである株式会社オートワークス京都との連携により量産体制を構築。
- 日本国内で普及台数の多い日産アトラス（F24）をベースとすることで幅広い需要に対応今後も普通免許対応クラスを中心にEVコンバージョンラインアップを拡充予定。





➢ 11月11日　グリーンコープ社向けEVコンバージョン車両100台の導入へ

- グリーンコープが使用していた「日産アトラス（F24型）ベース EVコンバージョン」を量産開始後、初めて導入。「EVリボーントラック」と名付け、2027年末までに100台の導入を予定。
- 2026年11月11日にグリーンコープ生協みやざき 宮崎支部（宮崎県宮崎市）において「EVコンバージョンセレモニー」を開催。
- セレモニーの最後には出発式を実施し、EVコンバージョン車両が実際の配送ルートを走行。





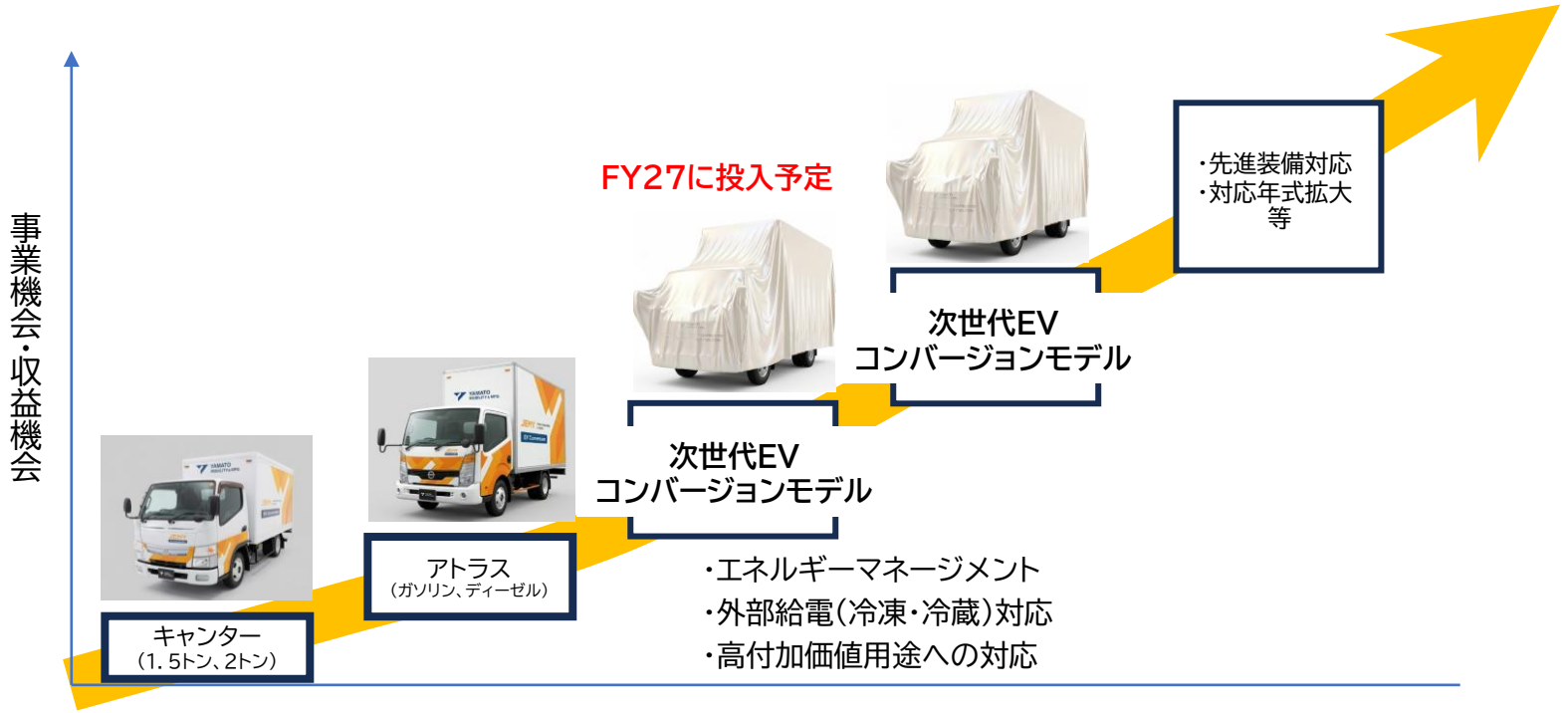




2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

➢ EVコンバージョン事業の成長ロードマップ

- ■ キャンター1.5トン・2トン、アトラス（ガソリン・ディーゼル）に続き、さらなるEVコンバージョンモデルの開発・市場投入を推進。
- ■ 顧客ニーズに応じた車種・用途展開を進め、商用車EV化市場における事業機会の拡大を図る。
- ■ 量産体制と実績を基盤に、EVコンバージョン領域における競争優位性の強化を目指す。
- ■ 量産実績を基盤に商品ラインアップを拡充し、商用車EV化市場におけるシェア拡大と収益機会の創出を目指す。



2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

(補足) 上場維持の取り組み

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。

上場維持の取り組み

当社株式は、東証スタンダード市場における2026年3月31日時点において「流通株式時価総額」基準への適合が確認できていないため、2026年4月1日付で東京証券取引所より監理銘柄に指定されました。
東京証券取引所に対し上場維持基準の適合に向けた計画書を提出しており、計画期間の2027年3月期末までに上場維持基準を満たすべく各取組みを実行してまいります。

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の状況 * 2026年3月31日現在	**750人**	**9,179単位**	**7.45億円**	**56.5%**
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%
適合状況	◎	◎	×	◎

* 当社の状況は、当社における試算数値を記入しております。正式には、以降発表する適時開示情報をご確認ください

＜実施した取組み＞

・4月1日 **役員持株会スタート**により、経営陣による上場維持へのコミット

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。



本資料は、ヤマトモビリティ & Mfg.株式会社（以下、当社）に関する情報提供を目的としたものであり、国内外を問わず、いかなる有価証券、金融商品または取引に関する募集、投資の勧誘または売買の推奨を目的としたものではありませ ん。本資料は、金融商品取引法またはその他の法令もしくは諸規則に基づく開示書類ではありません。投資のご検討にあたっては、投資家の皆様ご自身の判断で行うようにお願いいたします。 本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記載が含まれています。これらは、当社が本資料作成時点において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を 基礎として作成されています。これらの記載は、一定の前提および仮定に基づいており、また、当社の経営陣の判断または主観的な予想を含むものであり、国内外の経済状況の変化、市場環境の 変化、社会情勢の変化、他社の動向等の様々なリスクおよび不確実性により、将来において不正確であることが判明しまたは将来において実現しないことがあります。したがって、当社の実際の業績、 経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。 本資料への掲載にあたっては万全を期しておりますが、その内容の正確性、完全性および確実性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一 切責任を負うものではありませんのでご了承ください

2026 YAMATO MOBILITY & MFG. All rights reserved.　本資料の内容の無断転載・転用を禁じます。